

おばあちゃんの  
孫育て日誌

不思議が  
“楽しい”日々

瀧田節子

(大学教員)

A〇歳五か月、N七歳、K九歳の三姉妹の孫たちに導かれながらの、何気ない日常を思い返しながら、感じたことをお伝えしたいと思います。

なぜなぜ? ベビー!

初夏、間もなく五か月になるベビーAは、寝返りを盛んに始めたかと思うと、一週間後にはなんとズリズリと動き、はいはいを始めました。ママが「すごいね」と言葉を掛けると、Aは笑い声を上げています。

「どうしてできるようになるんだろう……教

えていないのに、ねえ?」ママ、ばあばも見えて見て、また動いてるよ」。お姉ちゃんたちも不思議に思い、寝転んで観察します。ばあばは、たくさんの赤ちゃんに出会ってきたはずなのに、寝返りやはいはいがどうしてできるようになるのかわかりません。

無藤隆先生が、著書『赤ん坊から見た世界』(講談社 一九九四年)のエピローグで「乳児のおもしろさは、何より、自分の子どもが生まれたときに感じられるだろう。ほんとうに可愛らしいのだ。」と言われています。今、膝を打ってこれに共感しながら、ヒトに備わ

瀧田節子 (たきたせつこ)

専門:造形表現教育。東京都の図画工作専科教諭を長く務める。筑波大学附属小学校教諭、お茶の水女子大学附属小学校講師を経て、現在は東洋大学、関東学院大学、清和大学短期大学部で非常勤講師を務めている。

っている能力を獲得していく赤ん坊Aの姿を毎日見て、なぜなぜ？ と不思議がるしかないこの頃です。

## 赤ちゃんのスクリブル

前出『赤ん坊から見た世界』〈第Ⅲ部 10—新鮮な世界への歎び〉に「○歳が、赤ん坊としてのかわいらしさが新鮮に輝いている時期だとすれば、一歳から二歳の赤ん坊は、自身が世界に踏みだして、その世界の新鮮さと、それを可能にしているみずからの力に歓喜しているように見える。」とあります。なるほど、孫たちが初めての「絵」らしきものを描いたのは一歳の頃からでした。

一歳七か月頃、Kは筆記具があれば手に握り、紙の上で腕を動かすことを喜びました。カラーペンを持つ手は右だったり左だったり、色を変えながらグリグリと動かしていました。

写真は、ペンのキャップに興味を持ち、遊んでいるところです。

Nの二歳頃は、線の軌跡に興味を持つかのようになり、時にはiPadでもドロージングをしていました。

孫たちの「じーじ」(文字書き)するきっかけ場面は見逃しましたが、三十数年前の娘

が「じーじ」するきっかけは、よく覚えています。それは、私が書き物をしていたときでした。一歳の娘は、母が書いた文字の上で何やら手を動かし、まるで線を重ねようとしているかのようにでした。



▲iPadに (N 2歳)



▲カラーペンで (K 1歳7か月)

そういえばその頃の娘は『ちいさなねこ』(福音館書店 一九六七年)がお気に入り、本にたくさんの「じーじ」スクリブル(なぐりがき)を書き込み(?)しました。この絵本は七歳上の従姉からのお下がりでしたが、すでに多くのページにスクリブルの書き込みがあるものでした。これから、これらのページに、十六年の時に重ねてイメージをつなげて、Aを含めた一歳児のスクリブルが増えていくのかしらと思う楽しみです。

## お顔大好き

本稿の執筆を機に孫たちの作品を改めて見てみると、「子どものユーモア」満載でした。特にお顔がお気に入りなことでしょうか。二歳の夕食時、お皿に野菜を並べて



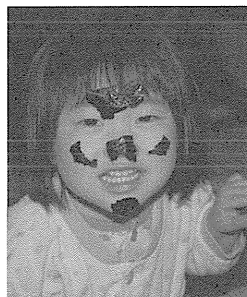
▲野菜でお顔(K 2歳)

お顔を作って遊ぶKは、体中で喜んでいきます。二歳頃のお絵かきも、お顔への関心が高いようでした。

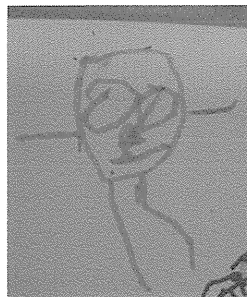
海苔<sup>のり</sup>で変身する次女Nは、いないないばあが大好きで、ばあばが階段を上る足音を聞きつけると物陰に隠れることを六歳まで続けました。N二歳八か月の絵は、中央がママで、お口を開けて笑っているように見えます。周りの小さい円形の形は、家族のお顔。



▲「ママとお家の人」(N 2歳8か月)



▲海苔で変身(N 2歳)



▲「ママ」(K 2歳)

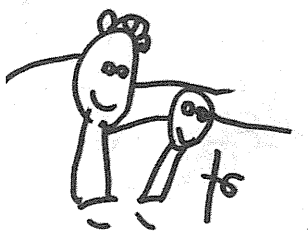
粘土遊びでも、紙粘土を握って生まれた形に、ビーズで目と口を付けて大満足。



▲粘土遊びで(K 3歳)

## 「お友達」いっぱい

前項のNの絵「ママとお家の人」には家族が描かれています。また、左のK三歳七か月の絵は、くりくりヘアのヒトが小さいヒトの頭を「いい子いい子」しているように感じ取れて、ほほ笑ましく思います。この画面の中には登場人物のかかわりも表れていることに、興味を引きました。



▲「いい子いい子」(K 3歳7か月)

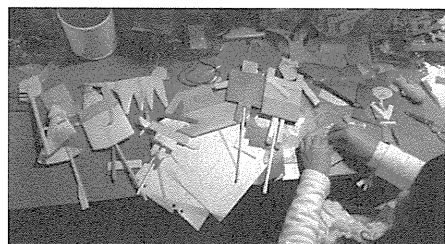
## そして作って遊ぶ

その後六歳になったKは、折り紙に割り箸を付けたお話の人形を作り、演じてくれました。このことを大切にしていきたいものだと思います。自分の発案により、かかわり合いを表すような作品を、ですから。

思えばお人形遊びもお友達いっぱいでしたね。並べ遊びが面白く、何やらお話が聞こえてきそうです。なぜなぜ？ 教えていないのに！——続く——



▲お友達いっぱい並べて(K 8歳、N 6歳)



▲ペープサートを作って遊ぶ(K 6歳7か月)